



宗教団体 真
メグデス

(淫語ボカロ/ブルース)

『**AHAHAN**』 **YUKARI & BLUES THUNDERS**

2024

【商品ページ】

https://www.dlsite.com/maniax/circle/profile/=maker_id/RG45495.html

Vocal: YUKARI

Guitar: Giant Schneider

Keyboard: 木下 桜子

Bass: Mickey Hat

【収録曲】

- | | |
|-----------------------------|------------------------|
| 01. AHAHAN | 06. キャンディー |
| 02. Hey, Guy | 07. ちゅっちゅ |
| 03. When the Thrill is gone | 08. ビースト |
| 04. メランコリック | 09. ブラックスネイク |
| 05. アンアン | 10. リバーサイドホテル |
| | 11. A7&F#m (※講座用の付録音源) |

圧倒的なアイディアの質と量 … 日本のブルース史における才能の暴力

解説：アナリス松岡

サイトで発売日を確認すると、前作のアルバム『Call & Response』のリリースが、2024年10月17日。そして、僕がこの原稿の依頼を受けた本日の日付は、2024年11月4日。なんてこった、1ヶ月も経過していないじゃないか！

もしかしたら、前作制作時に、サクラコが曲のストックをためこんでいて、それを分割してリリースしたのかとも思った。しかし、僕に原稿依頼をしてきたミッキー（・ハット/ba）女史によると、そうではないらしい。

「サクラコが、前作リリース直後から、『次はこれ、次はこれ...』と、どんどんデモを送ってきた。クレイジーだと思ったわ（笑）」

わずか、1か月未満の間に、すぐに10曲を書き上げ、また、メンバーもレコーディングを終えてしまったのが、本作『AHAHAN』である。では、アルバムの内容がラフなものであるかということ、全くそんなことはない。むしろ、前作よりも緻密さが際立っている。楽曲のバリエーションも豊富だ。マンネリは一切感じさせない、素晴らしい内容となっている。

◆ ◇ 透明感のある美しい音の仕上がり

アルバムをひと通り聴き終えた感想は、「透明感のある、美しい音だな」ということである。

二枚のアルバムを比較しながら聴いてみると、前作『Call & Response』だけを聴いていた時には気づかなかった点が、色々と浮かび上がってくる。

『Call & Response』のギターの音は、これまでのジャイアント（g）と、何ら変化がない。音楽ジャンルが変わろうと、ジャイアントには一貫した、フライングVのギタートーンがある。ヘビーメタルであろうと、ブルースであろうと、ジャイアントのギターソロのトーンは同じである。それが、彼のギターの特徴である。ところが、本作収録の1曲目『AHAHAN』のギタートーンは、これまでの彼の活動の中で、今まで出てこなかった、歪みを抑えたクリーンなギタートーンである。このトーンがアルバム全体で採用されており、それが、60年代のブルースやジャズの「美しい、透明感のある音」の印象に繋がっている。

2曲目は、1曲目と異なり、非常にヘビーなブルースだ。バディ・ガイ等の「シカゴ系のブルースを意識した曲なのかな？」と思わせておいて、後半、テンポチェンジして、ハードロック調のギターソロが始まるのは、ジェイク・E・リー率いるBADLANDSの名曲『High Wire』を彷彿とさせる。

本バンド名義『ブルース・サンダース』は、ブルースと銘打っているものの、メンバー全員が『淫語ボカロ宗教団体真メグデス』という、怪しげな活動を行ってきた連中である。ロック、ヘビーメタルといったジャンルにも、彼らは精通しており、それが、彼らのブルースに大きな影響を与えている。

ブルースは、ロックやジャズ、ロックなど、さまざまな音楽ジャンルの母親的な存在である。一方、『ブルース・サンダース』のブルースは、ロックやメタルなどを逆流させて持ち込んでいる。時間軸を逆転させた発想が、彼らのブルースを色彩豊かなものにしている。

3曲目『When the Thrill is Gone』は、曲のタイトルから察するに、B Bキングの大ヒット曲『Thrill is Gone』を意識したものだと推測される。洗練された都会的な響きのブルース・バラードである。

音数をギリギリまで減らした、美しいギターソロのイントロが心に染みる。

◆ ◇ 井上陽水をトラックで轢き殺すようなサウンド

メタル界では、90年代に、ガンズ&ローゼスの登場を皮切りに『ブルースへの回帰』が流行した時期があった。先述したジェイク・E・リーのBADLANDSは、まさにブルースを訴えていた。また、日本では知名度が極めて高いMr.BIGも、ブルース的な音楽性を主張していた。しかし、彼らは「メタルの派生形としてのブルース的なメタル」を目指していた。『ヘビーなギターの音と、テクニカルな見せ場』を重視していた。「ヘビーで、テクニカル」というのは、70年代から連綿と続く『白人のブルース』の特徴である。古くはベンチャーズの頃から、とにかく白人はテクニカルな演奏にこだわっていた。白人は「テクニックへのフェチズム」を持っているのかもしれない。

一方、ブルース・サンダースは、サクラコが「フレディ・キング、BBキングを参考にした」と前作のアルバムで述べているように、「黒人のブルース」にかなり寄せているように思われる。ギターサウンドも軽く、早弾きも抑えられている。5曲目『アンアンアン』のゆったりとしたグルーヴに、しつこく絡みつくギターフレーズは、完全に黒人のブルースである。その一方で「イクウ、イクウ、イクウ、イクウ」と連呼するところは、90年代のエロゲを意識しているのであろう。全く独特なハーモニーと音楽概念を持った、『ブルース・サンダース』だけが成しうることができる、創造的なブルースである。

ブルースのゆったりとしたサウンドの中にも、強烈に実験的なサウンドがところどころで牙を向き、アルバムの緊張感は、最初から最後まで続く。特に強力なのは、スピードナンバーである、4曲目『メランコリック』ではないだろうか。チャック・ベリーを彷彿とさせる高速ナンバーであるが、ドラムのツースバスを駆使した巧みなアプローチやリズム・チェンジによって、独特なロックンロール・サウンドになっている。

アルバム終盤、日本のニューミュージックに影響受けたであろう10曲目『リバーサイド・ホテル』も白眉である。歌詞は、井上陽水からヒントを得たであろうことは明白なこの曲。陽水が、圧倒的な歌唱力と繊細さで美しさを訴えているところを、ブルース・サンダースが突然現れて、巨大なトラックで豪快に轢き殺していく。そんな光景が目浮かぶ曲である。「ホテルはリバーサイド!」という歌詞で、シャウトするのは、広い宇宙でブルース・サンダースだけだろう。ジャズのようなサウンドでありながら、同時に、パンクのような荒々しさも内包する、強烈な曲である。こんな楽曲を生み出してしまふブルース・サンダースは、もはや、「日本ブルース史における才能の暴力」と言っても過言ではない。

ブルースというフォーマットに準じながらも、ブルースという枠組みを超えた、強烈なアルバム。あらたな名盤の誕生である。

(2024.11.4)



1. AHAHAN

男が女を犯す

ちんぽでまんこを犯す

私 欲しいわけじゃない

でもね さびしかったかも

口では嫌と言っても おまんこは
濡れちゃうの

あははん

男が女を騙す

男が女と遊ぶ

私 軽いわけじゃない

でもね つかれちゃったかも

愛なんてどこにもないとわかって
も

おまんこは濡れちゃうの

あははん

るるるるるるる～るるる～るる
～（ちんこ）

るるるるるるる～るるる～（入っ
てる～）

ダメダメ言っても まんこ濡れて
る～

るるるるるるる～るるる～るる
～

私、馬鹿よね

この歳でもまだ見栄を張ってる



2 . Hey,Guy

ヘイ、ガイ

オマエのペニス喰えたいぜ

すぐにでもさ

ゴムなんてつけなくてもいいぜ

生でやりたい

おまんこの中にいれなよ

すぐにでもさ

オマエのペニス感じたいぜ

すぐにでもさ

シャワーなんて浴びなくてもいい
ぜ

汗にまみれたい

おまんこの中にいれなよ

すぐにでもさ

オマエの子供孕みたいぜ

すぐにでもさ

ゴムなんてつけなくてもいいぜ

中に出しなよ

おまんこの中に出しなよ

すぐにでもさ



3 . When the Thrill is Gone

心が冷えた肌でも 何もないより
マシなの

だから今夜もコイツに、抱かれち
やったの

スリルは消えた

残されたのは ただのセックス

全てを穢すコイツの、その指が私
のラインをなぞる

手マン

中身のない男でも 会話しなけり
マシなの

だから私はコイツに、舐められち
やうのよ

スリルは消えた

残されたのは ただの性処理

全てを犯すコイツの、その舌が私
のラインをなぞる

クンニ

心が冷えた肌でも 何もないより
マシなの

だから今夜はコイツに、ヤられち
やったの

全てが消えた

残されたのは ただのセックス

体を強く揺らされ、その熱が私の
子宮をえぐる

射精



4. メランコリック

優しい言葉が、響かない、

食事していても、つまらない

「愛なんてどうせさ」

なんて言いたくなるよね こんな
ご時世じゃ

ちんぽを咥えて

今日も私はメランコリックよ

ちんぽが入ると、感じるの

お金が入ると 嬉しいの

「人なんてどうせさ」

なんて言いたくなるよね こんな
ご時世じゃ

お股を拡げて

今日も私はメランコリックよ

鏡の世界を見つめてる

綺麗な私を眺めてる

「夢なんてどうせさ」

なんて言いたくなるよね 全てデ
タラメで

お股を拡げて

今日も私はメランコリックよ

中に出されて

今日も私はメランコリックよ



5. アンアンアン

シャツを脱いで、乳首晒す
あなたの手が、触れるのを待つて
る

あんあんあんあん

あんあんあんあん

あんあんあんあん

気持ちいいです

舌先がぬるぬるで

心が震えちゃう

パンツ脱がせ ちんぽしゃぶる
あなたのこれで、愛されるのを待
ってる

あんあんあんあん

あんあんあんあん

あんあんあんあん

入れてください...

おちんぽがガチガチで

体が震えちゃう

お股広げ、まんこ晒す 全て晒す
あなたに精子 出されるのを待つて
る

あんあんあんあん

あんあんあんあん

ひ、ひ、お、ほう

中に 出して ください

おまんこがぬるぬるで

心が震えちゃう

おちんぽがギンギンで

体が震えちゃう



6. キャンディー

欲しくなるの熱くなるの

おちんぼやキンタマを舐めたり吸
って気持ち良くさせちゃう

唇でちんぼ、ちゅぱちゅぱしちゃ
ってる

獣みたいな私たち

おちんぼとおまんこを擦り合わせ
気持ち良くなっちゃう

腰をふりふりしちゃってる

夫婦みたいね私たち

おちんぼとおまんこを入れたりだ
して愛を確かめ合っちゃう

腰をふりふりしちゃってる



7. ちゅっちゅ

咥えしゃぶり吸ってさ
ただ君のものになるのさ

この時に溺れながらさ
君の肉の棒を味わう

ちゅ、ちゅ、ちゅ、んんん
ちんぽ舐めて美味しい

股を拡げ見せてさ
ただ君のものになるのさ

まんこ強く吸われながら
君の肉の棒を待つ

ちゅ、ちゅ、ちゅ、んんん
早くちんぽ入れてよ

股を拡げ声をあげてさ
ただ君のものになるのさ

乳首強く吸われながら
君の肉の棒を味わう

ちゅ、ちゅ、ちゅ、んんん
ちんぽハメて犯して

ちゅ、ちゅ、ちゅ、んんん
中に精子出してよ



8. ビースト

あなたの腕が私を捕らえて
逃げられ ないほど 力強く
キスで 唇を 奪われ 息もでき
ない

強引に スカートを捲られ パン
ツ脱がされ

おまんこを激しく舐められちゃっ
たの

気持ちいいの...

生でハメられ

前から激しくされて

後ろからも激しくされて

獣になっちゃう

息ができない

感じ過ぎちゃう

おまんこに たっぷり 出されち
やったの

酷い人ね

生でハメられ

前から激しくされて

後ろからも激しくされて

女になっちゃう

息ができない

感じ過ぎちゃう

おまんこに たっぷり 出されち
やったの

酷い人ね



9. ブラック・スネイク

何も言わずに私の口にペニスを押し付けてくるオマエが嫌い

男が女を闇の中で使う

私はオマエの肉の便器にされる

力任せに私の穴にペニスを押し込んでくるオマエが嫌い

男が女と闇の中で遊ぶ

私はオマエのためのオナホにされる

押しつぶされた私の穴にペニスを入れて出して遊ぶオマエが嫌い

男が女の膣の中に放つ

私はオマエの肉の便器にされる

男が女と闇の中で遊ぶ

私はオマエの肉の玩具にされる

私はオマエのためのオナホにされる



10. リバーサイド・ホテル

あなたの手が触れる

woo

前からしちゃったり

渦巻く闇の中

ホテルはリバーサイド

後ろからしちゃたり

私たちこれから、しちゃうの

ホテルはリバーサイド

私たちセックスしてるの

久しぶりに会ったら

お値段高めの 良いお部屋

元カレ、ペニスが勃っちゃって

どうして私たち あの日 あの時に

久しぶりに会ったら 元カレ、ちんぽがギンギンで

私もマンコが ぬるぬるになっちゃって、

別れる話を してしまったんでしょ

私もマンコが ベトベトになっちゃって、

今夜は リバーサイドのホテルでセックス

今夜は リバーサイドのホテルでセックス

今夜は リバーサイドのホテルでセックス



アルバム『A H A H A N』ギター機材紹介

(ジャイアント・シュナイダー)

ハロー、ジャイアントだ！ 本当に凄いアルバムができたよ。今回のアルバム『A H A H A N』は特別だね。全ての要素が、まるで導かれるように、自然にひとつにまとまっていったんだ。マジックがあった。そのマジックのひとつが、このBacchusのテレキャスVだ。



『テレキャスV』 Bacchus

ソロを弾いたときに『ピキーン』と鳴る。バックینگでコードをストロークしても透明感があって、歌を邪魔しない。ハットやシンバルのようなイメージで鳴ってくれると感じる。パリッと乾いた音が出る。びっくりするぐらい、ネックが細い。

◇ ◆ テレキャスVの音はバッチリだった

オレとミッキー（・ハット/ba）は「フライングVマニア」なんだ。で、数年前は、毎日ヤフオクでめばしいフライングVがないかを探して、あれこれ情報交換していたんだよね。当時は金がなかったんだけど、メグデスのアルバムが売れてさ。じゃあ、バンドで機材でも買おうかという話になったんだけど。サクラコは「別に欲しいモノない」と言ってさ。それで、オレとミッキーで喜び勇んで、ヤフオクで、フライングVを買いまくってたんだよ。バカだよね（笑）でもまあ、メグデスの7th「BAD SISTERS」が売れて、その散財分がぐらいは取り返したんだけど。で、そんな時期に入手したのが、この『テレキャスV』だ。中古で3万ぐらい。

この世には、フライングV好きがフライングVを買い集める、『フライングV界限』というのがある（笑）。で、その『フライングV』界限で、一瞬だけ『テレキャスV』が話題になったんだ。アメリカの高級ギターで、それは25万ぐらい。野村義男（ギタリスト）がYOUTUBEの番組で「いいね！」なんて言っててさ。でも、高いじゃん（笑）。そうこうしてたら、Bacchusが廉価版として、テレキャスVをリリースしたんだ。オレの認識では、そういう流れだった。でも、すぐに市場から消えたんだ（笑）。多分、二度と市場に出てこないと思う。なぜだと思う？

『フライングV』を持つ人間って、ヘビーメタルを弾きたい人間が、圧倒的多数なんだ。ブルース・ギタリストでも、アルバート・キングはフライングVを使うけどね。でも、やっぱり、マイケル・シェンカーや高崎晃に憧れるようなギタリストがフライングVを持つね。その場合、テレキャスターのようなシングルコイルの軽い音は、ピンとこないんだよ。

BacchusのテレキャスVも、初めて弾いたときは、何がなんだかわからなかったよ。戸惑った。ボディーが、バルサミたいに軽い。ネックもびっくりするぐらい細くて、玩具みたいなんだ。GIBSONのフライングVとは、全く異なる概念のギターだよ。ボリューム・ノブが近くにあって、弾きにくいし。安いギターだしね。「これはダメだ」って思って、何年も放置してたんだ。

だけど、サクラコ（木下桜子/key）が、急に「ブルースをやる」って言い始めて。で、前回はGIBSONのフライングV（ブラウン）を弾いたんだけど、「これはダメだな」と感じていた。2000年以降のGIBSONって、ピックアップが『ダーティー・フィンガーズ』で、ヘビーは音が出るように設計されているんだ。だから、ブルースには合わない。昔のフライングV、90年代ぐらいまでのモデルは、甘いブルージーな音が出るんだけど、今はそうじゃない。オレも90年代のモデルも持っているんだけど、気に入らなくてぶっ壊しちゃったんだよね（笑）。90年代のモデルは、それはそれで問題があって、どう工夫したって、メタリックな音が出ないんだ。だから、GIBSONのフライングVのモデルチェンジは、市場のニーズに合わせた、正しい選択だと思うよ。でも、オレは急にブルースをやることになったから、欲しいのは、むしろ、90年代のモデルの音だ。身勝手だよな、ユーザーって（笑）。



Epiphone改造V（通称：カレーパンマン）

P-90を搭載。ネックはGIBSONより太い。中古で3万程度で入手？前作、本作のメインギター。丸い、太い音が出る。凄く作りがしっかりしていて、GIBSONとは全く別のニュアンスの音。EpiphoneはGIBSONの廉価版ではなく別の価値があるギター。



Flying V（通称：ブラック）2000年代以降のモデル

中古で10万で入手。当時はピカピカのシルバーだったけれど、タバコのヤニでめちゃくちゃになった（笑）アーム搭載。しかし、アームは、ギターソロでは使わない。パワーコードを揺らして、リズムをつけるのに使う。ヘビーな音が出る。湿り気のある音。

◇ ◆ ブルースは歌とギターで交互に歌い上げるから、音の選択が難しい

前作のアルバムの機材紹介で紹介した、Epiphoneの改造Vは、ピックアップがP-90だ。これはブルースに合う。まあ、ブルースの音のことなんて、オレ、よくわからないんだけど（笑）。でもまあ、演奏してみて、成立しているように感じた。でも、P-90はノイズが大きいなど問題点もある。今回のアルバム、どうしようかなと思って、ふと、テレキャスVを使ってみたら、バッチリだったんだよ！チョーキングした瞬間、「凄い！」と思った。8曲目「ビースト」のイントロのソロは、まさに、テレキャスVで初めてレコーディングして、「これだ！」と思ったテイクを、そのまま使ってる。シングルコイルでしか、絶対出せない音だよ。ジェフ・ベックのような音だ。

テレキャスVの音は「今回のアルバムのために制作されたんじゃないか??」と思うぐらい、バッチリだった。ギター単体の音がどうこうじゃなくて、ゆかり（結月）のボーカルと合わせた瞬間、ギターとボーカルが、スパッと抜けてきたんだ。

ブルースって、歌とギターが交互に繰り返されるから、メタルよりギターパートが多いんだよ！メタルにおけるギターソロは「必殺技」みたいな感じだから、とにかく自分の好きな音でギラギラと目立ってほしいだろうところが、ブルースの場合、歌と交互に「一緒に歌い上げる」感じだから、バランスが難しい。地味でもダメだし、ボーカルより目立ち過ぎてもダメなんだ。自分の好みだけじゃなくて、ボーカルに寄り添わなくてはいけない。でも、テレキャスVは、バランスよく、ゆかりの歌声に絡んでくれたね。でも、イア（・プラネット／前作のボーカル）の場合は、また事情が変わるかもしれないけど。

ライン録音のセッティング



LINE6 (POD) -マーシャル

宅録ギタリストは、みんなそうだと思うけど、オレも昔は、一日中、設定のつまみを弄ってた。でも、今はデフォルトをそのまま使ってる（笑）。結局、最後はそうなるんじゃないかな。マーシャルの標準的なセット。



LINE6 (POD) -60'Blues Rock

何も触ってない。「ブルース・ロック」と書いてあったから選んだだけ（笑）。クランチ・サウンド。本アルバムは、こっちを主に使った。前作は、マーシャルの設定を使った。



EQ

オレの唯一のこだわりが、ミキシングのときのイコライジング。中音域だけ、極端に強調する。これやると、古臭い『軽い音』になるからオススメしない。でも、オレはもう、この音以外でやりたくない。現代的なギターの音は嫌い。オレと相性が悪い（笑）。

◇ ◆ BBキングに勝たかったけど、ダメだった（笑）

ブルースって難しいなと、本当に思ったよ。説明が難しいんだけど、弾き直すとダメなんだよ。不完全なところがあるからこそ、相対的にハマってところがカッコよく聴こえたりするんだよね。全部、丁寧に弾いたり、オーバーダビングしていくと、ブルースじゃなくて、クリームとかレッド・ツェッペリンみたいなサウンドになっていくんだよ。本当に！聴きやすく丸まってっちゃう。

現代的な耳からすれば、クリームやレッド・ツェッペリンの音は、十分に荒々しい音なんだけど。60年代のブルースを聴きなれていると、かなり「作りこんだ匂い」がするんだよ。

オレはオーバーダビングが好きだし、ブルースのアルバムでも、どんどんハーモニーを入れる。でも、BBキングやフレディー・キングの『ストレートな、黒人のブルースの音』にも憧れているから、ダビングを控えた気持ちもある。だから、凄くあれこれ弾き直したあとで、「やっぱり最初の変なテイクにしよう！」と決断したこともあるよ。

6曲目「キャンディー」は、アルバムの中で唯一と言っていいほど、苦戦した曲。これ、ブルースじゃないんだよ！（苦笑）どう考えても、ポップスだろ。でも、サクラコの定義では「ブルース」なんだ（笑）。確かに、3コードのブルース進行なんだけどさ。これはもう、サクラコが、オレへの嫌がらせのために書いた曲だね。アイツは、オレが苦手なことをやらせたがるんだ（笑）。

「キャンディー」のレコーディングは、本当に大変だったな。サクラコが作った元々のオケがあるんだけど、ミッキーがオレのギターにあわせて、かなりリズムを改変した。リズムをめちゃくちゃ練っていたね。アイツのドラムのアイディアは凄いの。以前とはもう、段違いに凄い。オレのギターのサウンドに合わせて、全部、ドラムパターンを変更したんだ。ドラムの音源も、テクノっぽいものと、ファンク系の音を交互に使ったりしてね。凄く複雑だよ。苦手なことをやるのは苦しいけど、こうした「創意工夫」をやると、新しい発見がたくさんあるよね。

メグデスは、リスクをとって、時間をかけて、物凄く変な曲もたくさんやってきた（笑）。演歌だとか、童謡とかさ。そのときは上手くできなくても、10年後ぐらいに、その勉強が凄く効いてくるんだよ。一回、徹底的に研究して「ダメだった～」となるだろ。そうすると、街でそうした曲が流れたときに「どうして、上手くできなかったんだろう？オレには才能がないんだろうか？」って、ずっと考える。トラウマとしてね（笑）。そうするとさ、ある日、突然解決したりする。あるいは、誰かに「それはこうやってるんだよ」と教えて貰える機会がある。音楽における『作曲上の問題』は、悩み続けていると、必ず解決するんだよ！絶対に解決する。

音は12個しかないし、一聴して難解に思える音楽でも、完成度が高い曲であればあるほど、凄くシンプルなことがほとんど。何か特別なことをやってるわけじゃない。絶対に解決策があるんだ。詰将棋みたいなもんだよ。わかれば「あ、そうか」ってなる。でも、答えをみれば一瞬だけど、わからないときは、3手詰めだってわからないんだよ。まあ、将棋は制限時間があるけれど、音楽に制限時間はないから（笑）死ぬまで悩んでいたいいし。誰かとの勝負でもないしね。B'zのギタリストは、オレの何万倍も成功しているだろう。でも、オレしかできないことは、いくらでもあるよ。そういうもんだよ。アイツは何かのインタビューで「オレはもう、マイケル・シェンカーを超えた」だとか言っててさ。アホだよ。ま、いいけどね。

いずれにせよ、音楽は、たくさん課題を抱えておいた方が、後から楽しいよ。歳をとると、どんどん神様が教えてくれるんだ。前作『Call and Response』で解決できなかった問題が、今回解決したこともあるよ。「ああ、そういうことか」って。音楽は『時間の芸術』と呼ばれているんだけど、『音楽の悩み』は『時間の神様』が解決してくれることがほとんど。若い時は、ぶっ倒れるまで録音したりしてたけど、そんなに急ぐ必要もないんだよ。音楽は逃げるわけじゃないし。それも、『時間の神様』が教えてくれた。もっと早く教えてくれよ！（笑）

本アルバムの、どの曲の、どのギターパートも凄く気に入っている。でも、唯一『When the Thrill is Gone』は、納得できていないね。この曲のソロは、BBキングのヒット曲『Thrill is Gone』を参考に弾いたんだよ。つまり、オレの敵はBBキングだ（笑）BBキングを、なんとか超えようと弾いてみたんだけどダメだった。彼は偉大だ。

BBキングの『Thrill is Gone』は、平坦な8ビートなんだよ。平坦な8ビートでペンタトニックでギターを泣かせるって、本当に、物凄く難しい。無理だよ。絶対に無理！どこで音を引っかければいいのか、とっかかりがなくて、迷子になってしまうんだよ。で、どれだけ頑張っても、結局ダメでさ。最後は、ミッキーが、オレのギターに合わせて、もともと平坦だったビートを、バックビートに修正したんだ。オレがギターを入れた後で、バックビートにしたんだよ。クレイジーだよな。

バックビートだったら、まあ、ごく普通のブルースになるからさ。それだったら、オレも弾けるから。ちょっと弾き直して修正してやっと完成したんだけどさ。でも、当初のイメージとはかけ離れた結果になってしまった。そんな経緯があるから、この曲は、オレにとってBBキングへの敗北感がある。聴くと落ち込むんだよ。でも、それって最高にブルースだよな！（笑）

【『AHAHAN』使用ギター一覧メモ】

テレキャスV使用楽曲	改造V (P-90)	GIBSON (ブラック)
2. Hey、Guy	1. AHAHAN	9. ブラック・スネイク
3. メランコリック	2. When the Thrill is Gone	
5. アンアンアン (改造V併用)	4. メランコリック	
6. キャンディー	5. アンアンアン (テレキャスV併用)	
8. ビースト	7. ちゅっちゅ	
10. リバーサイド・ホテル		

この『使用ギター一覧』は、レコーディングが終わってから、聴き直したメモだから、もしかしたら間違っているところもあるかもしれない。

ソロを弾いたときに高音で『ピキーン』という音が混ざるのがテレキャスV。あと、バックিংでストロークした音が、他の楽器の音を、全く邪魔せず、バンドの音全体が濁らないのが最大の特徴だ。

改造VはピックアップがP-90だから、丸くて太い音がする。クリーントーンでも太い音が出るのが特徴。伴奏でストロークすると、温かみのある厚みが出るね。テレキャスVとは異なる、ちょっと濁った感じが、逆に良いフィーリングになる。どちらが良いかじゃなくて、色付けの好み。ギターの選択は、それが楽しいよ。

GIBSONの『ブラック』と呼んでるギターは、オレの愛機だ。ジョン・サイクスみたいなヘビーな音ができる。ピックアップが『ダーティーフィンガーズ』だからね。2曲目『Hey,Guy』と、9曲目『ブラック・スネイク』は、どちらの曲も、全く同じアンプのセッティングで、どちらも、ジョン・サイクス在籍時『サーペンス・アルバス』の頃のWhitesnakeを意識した楽曲だ。バンドのアンサンブルで利用している楽器も同じだし、グルーブも、コード進行も似ている。でも、ギターが違うだけで、全然印象が変わるよね。GIBSON『ブラック』で弾いて、ストリングスの音が入ると、もう、それだけで『サーペンス・アルバス』っぽくなると思うんだけど、どうかな（笑）。イントロから、ズガーンという空間になるだろ？あまりにもヘビーな音が出るから、ボーカルを潰しちゃうと思って、最近使ってたんだけど、今回の曲には、上手くハマった。伴奏がシンプルなパワーコードだから、歌を邪魔せずに済んだのかもしれないね。

『ブルース』のレコーディングは、独特な緊張感があって楽しめる。ギターを変えるだけで、楽曲の雰囲気が大きく変わるのも楽しいね。ギターの特徴が出やすいから、後から聞き直して「あ、これはあのギターの音だ」って、よくわかるんだよ。昔はブルースなんて全く興味なかったけど、やってみると「こんなに面白いんだ！」と思って、びっくりしたよ。

いつものレコーディングだと、とにかく正確に弾こうと思って何度もやり直すんだけど。ブルースの場合「間をとるため」に、弾き直すんだよ！弾き過ぎて、ごちゃごちゃしないように、歌メロとギターがひとつになるように、気を配ったつもりだ。気に入ってくれると嬉しいよ！OK、また会おう！（2024. 11. 5）